

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：稼働率・生産能力指数(2005年12月)

発表日：2006年2月13日(月)

～ 稼働率は引き続き高水準 ～

(No. J - 231)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 新家 義貴

TEL : 03-5221-4528

(単位:%)

		稼働率指数						生産能力指数					
		製造工業		電子部品・デバイス		輸送機械		製造工業		電子部品・デバイス		輸送機械	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
04	1-3月	0.1	6.0	0.3	13.3	▲1.5	3.7	▲0.5	▲1.7	0.8	2.5	▲0.1	▲1.2
	4-6月	1.9	5.7	0.6	15.3	4.3	6.5	0.1	▲1.0	4.2	5.5	▲1.9	▲2.4
	7-9月	0.3	5.6	▲4.6	2.7	▲0.7	5.2	▲0.1	▲0.7	1.5	7.3	▲0.7	▲2.7
	10-12月	▲0.2	2.2	▲5.0	▲8.5	0.3	2.9	0.0	▲0.5	2.5	9.3	0.1	▲2.6
05	1-3月	0.9	1.6	1.7	▲8.4	3.4	5.9	▲0.3	▲0.3	0.3	8.7	1.0	▲1.5
	4-6月	1.6	2.6	0.5	▲7.3	1.1	4.0	0.0	▲0.3	1.3	5.7	▲0.2	0.2
	7-9月	▲1.7	0.5	3.6	0.7	▲5.8	▲1.4	0.3	0.1	1.7	5.8	0.4	1.3
	10-12月	2.5	2.8	3.9	9.8	4.1	1.6	0.4	0.5	3.5	6.8	1.2	2.5
04	12月	▲1.4	1.2	0.7	▲9.9	▲5.1	▲0.3	0.0	▲0.4	0.3	9.3	▲0.1	▲2.6
05	1月	3.1	1.6	2.7	▲9.0	6.8	5.3	▲0.2	▲0.2	▲0.3	9.4	1.1	▲1.5
	2月	▲1.7	1.8	▲0.7	▲8.1	▲0.4	7.2	0.0	▲0.1	0.3	9.7	0.0	▲1.5
	3月	▲1.2	1.4	▲0.5	▲8.3	0.1	5.2	▲0.1	▲0.4	0.4	7.1	0.0	▲1.5
	4月	4.3	2.6	2.5	▲6.8	5.7	5.6	▲0.1	▲0.8	▲0.8	4.9	0.0	▲1.5
	5月	▲2.3	2.9	▲3.4	▲9.4	▲7.5	4.4	0.3	0.0	2.3	5.8	▲0.2	1.4
	6月	0.6	2.3	3.0	▲5.8	2.6	2.3	0.0	▲0.1	0.5	6.3	▲0.1	0.8
	7月	▲1.6	▲1.0	0.8	▲3.0	▲4.4	▲2.9	0.0	0.0	0.0	5.5	0.0	0.8
	8月	0.4	1.7	3.6	0.7	▲2.8	0.1	0.1	0.0	0.8	6.0	0.0	0.8
	9月	0.1	1.0	▲1.2	4.5	4.2	▲1.0	0.3	0.3	0.2	6.0	1.8	2.3
	10月	1.4	2.4	2.2	7.1	▲2.4	▲2.9	0.2	0.5	3.1	7.0	0.0	2.3
	11月	0.9	2.5	0.0	10.0	5.5	0.9	0.0	0.5	0.1	7.0	0.0	2.3
	12月	0.9	3.5	3.9	12.3	3.1	7.3	▲0.1	0.4	▲0.2	6.5	0.2	2.7

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

## ○ 稼働率は5ヶ月連続の上昇

12月の稼働率指数は前月比+0.9%と5ヶ月連続の上昇となった。12月の106.5(季調値)という水準は、97年1月の106.6以来の高水準である。

業種別にみると、価格維持のための減産が汎用品を中心に続いている鉄鋼業では、稼働率は依然として低下傾向にある。もっとも、こうした素材業種の稼働率低下を加工業種の稼働率上昇が相殺している結果、製造工業全体でみれば、稼働率は昨年半ば以降、緩やかな上昇傾向にある。今月は特に、国内外での旺盛な需要に支えられた電子部品・デバイスや、輸出向け生産が好調な輸送機械での稼働率上昇が目立った。また、12月には小幅低下したものの、一般機械も基調としてみれば上昇を続けており、全体への寄与も大きい。

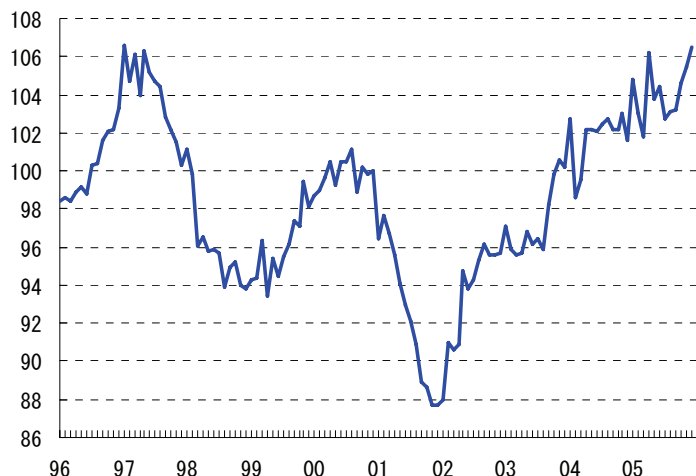
2月17日(金)に公表予定の10-12月期GDPでは、設備投資に関しても堅調な結果が見込まれている。バランスシート調整の終了や底堅い企業収益、先行きの売上増加期待などがその背景として挙げられるが、その他にも、こうした高水準の稼働率が能力増強投資に繋がっているという要因も大きいと考えられる。実際、12月の生産能力指数は前月比▲0.1%と小幅低下したが、基調としてみれば緩やかに上昇している。

なお、生産能力が持ち直しているとはいってもまだ水準はかなり低く、当面、設備過剰感が高まる状況にはなさそうだ。少なくとも2006年前半頃までは、設備投資は堅調な推移を保つだろう。先日公表された機械受注の結果とも整合的だ。

## ○ 確報はほぼ変わらず

同時に公表された12月の鉱工業指数確報は、速報段階とほぼ同じ結果だった。生産指数は前月比+1.3%と、速報値の同+1.4%から▲0.1%Pの下方修正となった。この結果、10-12月期の生産指数は、速報段階の前期比+2.7%から+2.6%に下方修正された。また、12月の出荷指数は同+1.1%（速報同+1.1%）、在庫が同+0.3%（速報同+0.3%）と速報と変わらず、在庫率は同横ばい（速報同▲0.3%）と▲0.3%Pの下方修正だった。

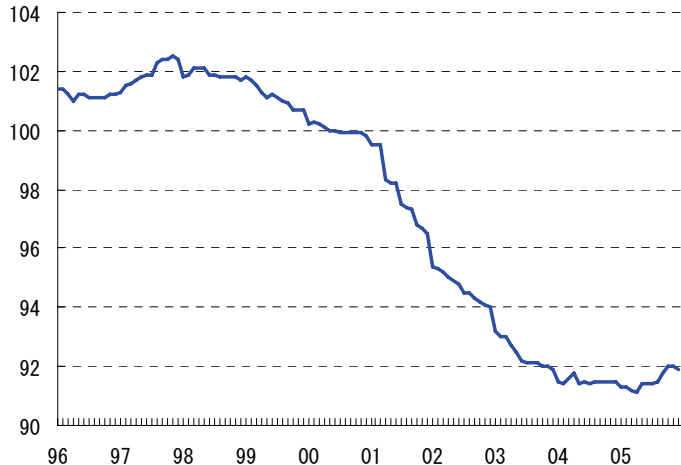
設備稼働率（季調値、指数）



設備稼働率・鉄鋼（季調値、指数）



生産能力指数（製造工業）



(%) 稼働率指数寄与度分解前年比（製造工業）

